

(別紙6) 設計業務基本方針

設計業務は、本方針に基づいて行うものとし、特に次の事項に留意すること。

◆留意点

- ①公共建築であることを踏まえ、与条件や施設に必要とされる性能を満たす施設とすること。
- ②地域の特性や魅力の創出に寄与するよう、地域社会への貢献について配慮し、良好な景観形成と周辺環境との調和を図ること。
- ③計画から建設、運用、廃棄に至るまでのライフサイクルを通じ、長寿命、省エネルギー・省資源の観点から環境負荷の低減に努めること。
- ④工事完了後の維持管理に十分配慮した施設となるよう、維持管理や保全が効率的に行える設計とすること。
- ⑤コストの適正な管理を図ること。
- ⑥敷地内の他施設利用状況及び工期を考慮し、適切な計画とすること。
- ⑦この業務の履行に関して知り得た秘密を漏らしてはならない。

1. 設計の進め方

- (1) 設計に当たっては、基本計画説明書に沿って実施設計を進めること。
- (2) 県担当者との打合せを十分に行い、意匠、機能及び構造等の基本的な考え方をまとめ、県担当者の確認を受けたうえで作業を進めること。
- (3) 設計業務等の実施に当たり、現地踏査、文献等の資料収集、施設管理者への聞き取り調査を実施、設計等に必要な現地の状況を把握し、その結果の取りまとめを行うこと。
- (4) 建築物の敷地、構造及び建築設備に関する法律等並びにこれに基づく命令及び条例の規定等を遵守するほか、工事標準仕様書、各種設計基準及び標準図等に基づいて設計を進めること。
- (5) 工事实施時に支障となることがないように、官公署等との打ち合わせを緊密に行い、結果を文書で保存しておくこと。(例：建築主事、消防署、上水・下水管理者、電力・電話・ガス会社等)
- (6) 建築及び設備の設計工程を明確にし、各設計担当者相互の連絡を密にすることにより、設計作業が円滑に進むよう努めること。
- (7) この方針に明記されていない事項があるときは、県担当者と協議して定めること。

2. 実施設計

実施設計は、建築関係法令等に定める事項のほか、下記事項について十分検討すること。

(1) 耐久性

通常 of 修繕や補修をすることにより、使用する木材が必要な性能を長期的に確保できるよう、腐朽及び食害に対する対策を十分行うこと。

(2) 仕上げ等

仕上げ材料は、シックハウス対策に配慮した材料とすること。

(3) 積算

積算に当たっては、工事内容を理解し、施工を考慮した正確な数量とすること。